



平成 19 年 5 月 30 日

各 位

会社名	タカラバイオ株式会社 (コード番号 4974 東証マザーズ)
本社所在地	滋賀県大津市瀬田三丁目 4 番 1 号
代表者	代表取締役社長 加藤 郁之進
問合せ先	常務取締役 木村 睦
T E L	(0 7 7) 5 4 3 - 7 2 1 2
U R L	http://www.takara-bio.co.jp/
親会社等の名称	宝ホールディングス株式会社
代表者	代表取締役社長 大宮 久 (コード番号 2531 東証、大証第 1 部)

米国子会社クロンテック社とインビトロジェン社との 変異体逆転写酵素に関する特許侵害訴訟の和解について

当社は、当社子会社のクロンテック ラボラトリーズ社(米国、以下「クロンテック社」と)とインビトロジェン社(米国)との変異体逆転写酵素に関する特許侵害訴訟について、米国メリーランド地区連邦地方裁判所の陪審による評決が下されたことを本年 5 月 18 日にお知らせいたしました。その後、両社が当該特許訴訟について和解に至りましたので、お知らせいたします。

今般の和解で、クロンテック社は、インビトロジェン社の RNase H 活性を持たない逆転写酵素に関する特許(米国特許第 5,244,797、5,668,005、6,063,608、5,405,776 号)が有効かつ権利行使が可能であることを認め、特許有効期間中、PowerScript 酵素製品を含む RNase H 活性を持たない逆転写酵素製品の販売を停止することに合意しています。なお和解の詳細については、両社は公開しておりません。

また、今般の和解に伴って和解金・製品廃棄等の費用が発生いたしますので、当該金額をクロンテック社単体及び当社連結の特別損失として平成20年3月期第1四半期決算に計上いたします。現時点で計上すべき金額は確定しておりませんが、概算で約11億円と見込んでおります。

一方で、当該特別損失による当社連結業績への影響を極小化するための対策も講じておりますので、特別損失の発生による当社連結業績の修正はいたしません。

以 上

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。